

平成28年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	スポーツサイエンス(Sports Science)		授業コード	A029852
担当教員名	竹田 隆行、安田 幸夫、郡 弘文、武田 正芳、池畑 義人、坂井 美穂、宇治橋 貞幸、北岡 哲子		科目ナンバリングコード	A20503
配当学年	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	
必修・選択区分	選択	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	他の科目を履修していなくても、この科目だけで理解できる内容になっています。			
受講心得	これまでの既成概念でスポーツを捉えるのではなく、幅広い視点でスポーツを捉えてもらいたい。			
教科書				
参考文献及び指定図書				
関連科目	健康の科学、生涯スポーツ指導、その他スポーツ関連科目			

授業の目的	<p>これまで、スポーツサイエンスは、「スポーツを対象とした科学」と考えられていました。いかに速く走るか・泳ぐか、いかに遠くに飛ぶか・投げるか、そのために有効なトレーニング方法は、栄養の摂取方法は等々、身体運動を中心に捉えられていたのが現状です。</p> <p>しかしながら、今日のスポーツはアスリートだけでなく、趣味としてスポーツをする、スポーツを見る・語る、スポーツゲーム(TVゲーム)をする、スポーツはしないけれどスポーツウエアを着る等々、様々な形で我々はスポーツを楽しんでいます。生活の中にスポーツが入り込んで来ていると言っても過言ではありません。</p> <p>また、スポーツは我々の生活を豊かにします。労働時間の短縮による余暇時間の増大、定年後の第二の人生において、スポーツは重要な役割を果たします。さらに、スポーツを通じて、コミュニケーション能力、的確な判断力、協調性、課題達成の喜び・充実感を味わう等々、社会人にとって必要な要素を身につけることができます。</p> <p>これまでの既成概念でスポーツを捉えるのではなく、幅広い視点でスポーツを捉えることが重要になります。そうすることによって、スポーツマインドを持った社会人への成長するとともに、豊かな生活をおくることができるのです。つまり、スポーツに関する英知を身につけることは、「人間力」の育成につながっていきます。</p>
授業の概要	講義は座学と演習で構成されています。幅広い視点でスポーツサイエンスを学びます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：1. イントロダクション(教養としてのスポーツサイエンス) スポーツサイエンスについて説明します。	課題・確認
第2週：2. 流体力学 スポーツと流体力学の関係について説明します。	課題・確認
第3週：3. スポーツと化学物質 スポーツ(健康)と化学物質について説明します。	課題・確認

第4週：4. スポーツと栄養 スポーツと栄養について説明します。		課題・確認
第5週：5. まとめ(座学) 座学についての確認を行います(中間テスト)。		課題・確認
第6週：6. ～11 スポーツ&ヒューマンダイナミクス スポーツ用品の機能性を説明します。		課題・確認
第7週：6. ～11 スポーツ&ヒューマンダイナミクス スポーツ用品の機能性を説明します。		課題・確認
第8週：6. ～11 スポーツ&ヒューマンダイナミクス スポーツ用品の機能性を説明します。		課題・確認
第9週：6. ～11 スポーツ&ヒューマンダイナミクス スポーツ用品の機能性を説明します。		課題・確認
第10週：6. ～11 スポーツ&ヒューマンダイナミクス スポーツ用品の機能性と使用における評価方法について説明します。		課題・確認
第11週：6. ～11 スポーツ&ヒューマンダイナミクス スポーツ用品の機能性と使用における評価方法について説明します。		課題・確認
第12週：11. ～15 各種トレーニング/各種ゲーム分析 座学で学んだことを演習で確認します。		課題・確認
第13週：11. ～15 各種トレーニング/各種ゲーム分析 座学で学んだことを演習で確認します。		課題・確認
第14週：11. ～15 各種トレーニング/各種ゲーム分析 座学で学んだことを演習で確認します。		課題・確認
第15週：11. ～15 各種トレーニング/各種ゲーム分析 座学で学んだことを演習で確認します。		課題・確認
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目	該当しない	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標

【関心・意欲・態度】	これまで経験してきたスポーツ観にとらわれずに講義にのぞんで欲しい。
【知識・理解】	物事を論理的に理解して欲しい。
【技能・表現・コミュニケーション】	コミュニケーション能力を磨いて欲しい。
【思考・判断・創造】	これまで学んだことを活かして、スポーツの更なる可能性を見いだして欲しい。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	15点	10点	5点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	10点	10点	10点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。			10点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点	10点	10点	
(「人間力」について)				
※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	スポーツ&ヒューマンダイナミクスでは、ノート提出をしてもらいます。
発表・その他 (無形成果)	演習での取り組む姿勢・態度・意欲を評価します。